

Leading the Web to its Full Potential...

W3C組織概要

W3Cは、WWW技術の標準化と推進を目的とした、会員制の国際的な産業コンソーシアムです。アメリカ合衆国マサチューセッツ工科大学計算機科学研究所(MIT/LCS)、フランス国立情報処理自動化研究所(INRIA)、及び日本の慶應義塾大学の三者がホスト組織として共同運営を行っています。W3Cは、WWWに関する情報の提供、技術仕様の策定と技術開発の促進、新技術のプロトタイプ実装などに取り組んでいます。

W3Cの活動とドメイン

W3Cでは、ワーキンググループ(WG)が具体的な技術仕様やガイドラインの策定を行います。WGは、主にW3C会員組織とW3Cの専任スタッフから構成されます。WGが作成した技術仕様やガイドラインは、会員組織と一般からのレビューに基づいて改善されます。その後、Webの発案者であり、W3Cの技術総括責任者である Tim Berners-Lee の決定により、W3C勧告となります。それぞれのWGは、以下の5つのドメインで活動しています。

Architecture Domain

Webを支える基盤技術の改善と自動処理の推進
XML / XML Protocol / DOM / URI / Jigsaw Web Server

Technology and Society Domain

Webの社会的影響の理解や関連コミュニティとの関係
Semantic Web / メタデータ / RDF / XML Signature / P3P / Public Policy / 電子商取引 / セキュリティ

Document Formats Domain

Webにおける効果的な情報表現のための技術開発
HTML / XHTML / XForms / スタイルシート (XSL / XSLT / CSS) / MathML / Graphics (PNG / SVG) / 国際化 / Amaya

Interaction Domain

Web情報に対する新しいアクセス手法の探究
Device Independence / 同期マルチメディア (SMIL) / Voice Browser

Web Accessibility Initiative (WAI)

障害を持つ人を含むすべての人が使いやすいWebの実現
W3Cの規格・技術のアクセシビリティの観点からの検証 / ガイドラインの策定 / 評価・修正ツールの評価と開発

W3Cへのご参加

W3C会員としてご参加頂くと、以下のようなメリットがあります。

技術仕様の提案、策定を行うワークショップ、ワーキンググループなどへの参加
会員専用Webページやメーリングリストを通じた、規格案などの最新情報の入手
研究員の派遣など、人的・技術的交流
W3Cの活動に対し、戦略的な方向付けも可能

現在、510を超える組織が世界各国から参加しています。この中にはコンピュータ産業や情報産業、インターネット産業をリードしている主要な企業が多数含まれています。日本からは35組織が参加しています。Web技術の全世界的な発展のためには東アジア地区からの会員参加が必要不可欠です。皆様の積極的なご参加をお待ち申し上げます。

W3C慶應

W3C慶應は東アジア地区のW3C会員への対応窓口です。現在10名がスタッフとして活動しており、特に国際化やHTML、Device Independence などに関する活動に取り組んでいます。また、日本のW3C会員に対しては、日本語による情報提供や、Webとその技術の普及・広報活動も行っています。詳しくは <<http://www.w3.org/Consortium/Hosts/Keio/>> をご覧ください。入会希望・お問い合わせなどは、下記までご連絡ください。

慶應義塾大学SFC研究所W3C
住所：〒252-8520 神奈川県藤沢市遠藤5322
TEL (0466) 49-1170 FAX (0466) 49-1171
E-mail : keio-contact@w3.org